平成 27 年

５月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課（農業革新支援センター）の取組～

岐阜県農政部農業経営課

平成２７年５月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

中濃農林■さといも　円空さといも産地拡大に向けて

農業普及課では、新産地づくり地域活性化推進事業で、円空さといもの産地支援に取り組んでいる。

5月27日、農業普及課とＪＡ、関市、美濃市など関係者で組織する「円空さといも産地振興プロジェクト推進委員事務局会議」を開催し、今年度は円空さといもの貯蔵方法の改善や販売ＰＲによる消費拡大について重点的に取り組んでいくことを推進委員会に提案することとなった。

農業普及課では、今後も事務局会議を継続して開催し円空さといもの産地拡大に向けて支援していく。

【委員会での話し合い】

農業経営課■アスパラガス　県関係機関による検討会を開催

県では地域の特徴を生かした農作物による「新産地づくり」を推進し、将来的な販売額１億円を目指した活動を展開している。

5 月 26 日、農業技術センターにおいて、県担当機関（農産園芸課、農林事務所）を招集し、アスパラガスの今後の生産対策に向けた検討を行った。

各地域の昨年の普及活動状況と今年の普及活動計画、昨年の実証・調査結果と今年の調査計画について情報共有を行った。また、今年の県下の共通課題として各地域の栽培暦や簡易雨よけハウスによる比較検討を行うこととなった。

【簡易雨よけハウス】

売れる農畜産物づくり

揖斐農林■茶　品評会出品茶を手摘み！　～１芯２葉、心を合わせて～

4 月 26 日から 5 月 10 日にかけて管内のモデル茶園 10 圃場の摘み採りが行われた。

関西茶品評会で上位入賞を狙う出品茶は、芽の大きさ・形を揃えるため一芽一芽手で折り摘みを行う。また、生葉の品質劣化を最小限とするため、1 圃場あたり 38kg を 4 時間以内に摘み終える必要がある。組合員、関係機関職員、一般・県・町職員ボランティア等手摘みに携わった人員は延べ約 1,100 人。連日の猛暑のなか 1 芯 2 葉で新芽を摘み採った。摘み採られた生葉は即、加工施設に持ち込まれ、研修を兼ねて荒茶加工が行われた。１点の加工に 5 時間以上を要したが、それぞれ満足のいく出来栄えとなった。

農業普及課は、機運の醸成や人員確保、摘み子の養成と進行管理を支援するとともに、当日の手摘み指導、加工の助言を行った。この後さらに「篩い」「再火」といった仕上げ工程の支援により品評会茶に“磨き”をかけていく。

【事前研修会風景】

【手摘み風景】

【加工研修会風景】

東濃農林■たじみ農産物直売所出荷者協議会　**不足野菜の解消と今後の目標に向けて**

多治見市の農産物直売所「駅北ファーム」は、6月でオープンから２年を迎え、販売額は前年比３割増と成長しているが、当地域は厳寒期に－5℃を下回ることも多く、厳寒期を中心に生じる不足野菜の解消に向け、重点品目の新たな作型（作期拡大）定着が課題である。

このため、耐寒性の強い晩生品種の導入、被覆資材の活用方法などの技術の確認を行い、野菜づくり塾や主要出荷者、シルバー人材センターの協力でこれらの実証・調査を進めることとしている。

【出荷者協議会総会・研修会】

また５月 13 日には出荷者協議会の総会において、ＰＯＳデータから主要野菜の出荷量の動きを示した上で新たな作型提案を行い、今後の作付誘導を図るとともに、将来目標についても言及した。さらに、昨年度末からＪＡと協議して「とうと農産物直売所ＧＡＰ」を新たに策定し、管内の直売所と共に、初歩的ではあるがＧＡＰの取組についても進めることとしている。

農業経営課■飛騨牛　**女性部ランチョンセミナー**

５月 22 日（金）、下呂肉牛組合金山支部（支部長：長谷部釘次郎）は、平成 29 年に宮城県で開催される第 11 回全国和牛能力共進会肉牛の部への出品牛が本年９月から産まれることに先駆け、下呂市金山振興事務所において「和牛子牛育成技術研修会」を開催した。

【ランチョンセミナーの風景】

研修会には金山地域の他、下呂地域や関市で和牛を飼育する農家の女性が参加し、それぞれの参加者の自己紹介の後、農業経営課の革新支援専門員が講習を行った。

午前と午後の講習の間のランチョンセミナー（昼食をとりながらリラックスした状態で意見交換や質問を行う研修方式）では、各農家が自分の経験や日頃感じている疑問について自由な雰囲気で発言を行った。参加者から「女性が参加する研修会の機会を増やしてほしい」という希望があり、今後繁殖雌牛の飼養管理等について同様の研修会を開催していく予定である。

戦略的な流通・販売

西濃農林■女性農業経営アドバイザー　**活動ＰＲとテストマーケティング**

ゴールデンウィーク初日の5月2日、河川環境楽園（オアシスパーク）にて女性農業経営アドバイザー活動として、農産物ＰＲ、テストマーケティングを行った。会員5名が、女性農業経営アドバイザーのマークを入れたオリジナルののぼりを掲げ、活動パンフの配布等を行った。併せて会員が生産する農産物や加工商品の販売も行い、各出品者が、販売価格を設定し、消費者動向を調査した。これは今年度、西濃ブロックの新たな事業として企画した取り組みであり、結果については6月9日のブロック全体会議にて報告を行う予定である。

【活動 PR の様子】

多様な担い手育成・確保

岐阜農林■新規就農者　ＪＡぎふ野菜専門塾を開講

5 月 23 日、ＪＡぎふ野菜専門塾が開講し、10 名が受講した。

第１回目の塾では、受講生に幅広く野菜づくりを理解してもらうため、農業普及課のいちご、えだまめ、ブロッコリー、アスパラガスのそれぞれの担当者から、栽培や経営上のメリットなどを説明し、新規栽培への働きかけを行った。また、午後からは４品目の生産現場を視察し、塾生からは栽培様式や生育状況などの質問があり、非常に関心を持っていた。

農業普及課では、今後も塾の講師として栽培技術等について指導する計画である。

【防虫ネット栽培の視察】

揖斐農林■定年帰農者　定年退職後に「柿」を生産しませんか。～柿帰農塾、受委託制度の始動～

揖斐地域の「柿産地の維持・拡大」を目的に組織した「大野町かき産地協議会」（構成員：大野町かき振興会・ＪＡいび川・大野町・揖斐農林事務所）は、今後５ヶ年の「果樹産地構造改革計画」を策定した。

計画では平成 27 年度に「担い手育成のための帰農塾」や「ＪＡと生産者が連携した柿作業受委託制度の整備」を開催することとしており、5 月 16 日、担い手を育てる取り組みとしての「柿帰農塾」と柿園管理のサポートをする「柿作業受委託システム」が同時に始動した。

「柿帰農塾」では、整枝・剪定や摘らい・摘果、病害虫防除など時期に応じて年５回に亘っての研修を予定している。この日は、大玉・高品質の柿生産のためには欠かせない「摘蕾」作業を中心に、農業普及課職員による講義と大野町柿振興会技術部員による現場指導を受けていただいた。定年退職後に柿栽培を始めたい方など 52 名が参加、「詳しく、丁寧に教えてもらえ、よく解った」と好評だった。

「柿作業受委託システム」は、ＪＡが作業の申し込みなどの事務処理を受け持ち、作業者と連携して産地の園地管理をサポートする仕組みで、後継者が就農するまでの間も安心して柿栽培を続けることができる。このシステムでの初めての作業が行われ、今後、柿の栽培面積減少に貢献できると期待している。今のところ受委託システムで受託可能な作業は、「摘蕾」、「防除」、「草刈り」、「収穫」、「剪定」などである。

【普及課職員による講義】

【柿振興会技術部会員に指導を受ける参加者】

郡上農林■新規就農者　「郡上トマトの学校」の研修生募集説明会を開催

5 月 30 日、夏秋トマトの新規就農者研修施設、ＪＡめぐみの「郡上トマトの学校」の第１回研修生募集説明会が開催され、県内外から２名の参加者があった。

当日は、地域や生産組織の概要や研修内容などの説明及び研修施設予定地の視察などが行われ、農業普及課からは青年等就農資金や青年等就農給付金などの説明を行った。

6 月 27 日には第２回説明会を行うなど 7 月 31 日まで募集活動を行い、平成 28 年 4 月の開校に向けて、郡上市や郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会とともに支援を行う予定である。

【研修予定地の視察】

可茂農林■ＪＡめぐみの就農塾　夏秋なすコースの第１回現地研修会を開催

就農塾は、中濃地域就農支援協議会のメンバーであるＪＡめぐみの、可茂・中濃・郡上各農林事務所が協力し、運営されている。このうち可茂農林事務所が担当する夏秋なすコースの実習は、坂祝町の就農塾受講者ＯＢの栽培ほ場にて、定植時期の５月から収穫が終了する 10 月まで毎月実施している。就農を目的としたプロ向きの研修内容とするため、ＪＡと農業普及課が協力して編集した実践的な栽培マニュアルに基づき、その時期に行う栽培管理技術を説明してから実習作業に入るカリキュラムである。また実際の実習指導は、就農塾ＯＢ、ＪＡ職員、農業普及課が手分けしてマンツーマンにより行っているが、事前に農業普及課が中心となって指導方針を指示している。

【現地研修の実施状況】

５月 13 日（水）開催の第１回目の現地実習では、事前に畦立て・マルチングされた箇所に苗を定植するもので、農業普及課が開花苗定植、植穴かん水、浅植、土寄せ密着などのプロの定植技術を説明した。

受講者は、家庭菜園技術では知りえないプロ向けの実践技術に戸惑いながらも耳を傾けており、今後、なす農家として着実に前に進むことを期待している。

恵那農林■新規就農者　東美濃夏秋トマト「夜間ゼミ」を開催！

農業普及課では、夏秋トマト栽培経験３年以内の新規就農者（約 15 名）と現在「あすなろ農業塾」で研修中の塾生５名を対象に、「夏秋トマト夜間ゼミ」の開催を企画した。

５月１日(金)午後６時 30 分から恵那総合庁舎において第１回夜間ゼミを開催し、農業普及課の遠藤技術主査が映像によりトマトの生理生態や栽培技術の基本的事項を説明し、参加者から分かりやすい内容であったとの好評を得た。

夜間ゼミは年間３回の開催を計画しており、参加者の受講希望内容の把握を通じて、中山間農業研究所中津川支所やＪＡひがしみの等関係機関の協力を得ながら、新技術や流通販売、ＧＡＰ等安全・安心への取り組みについて説明を予定している。

【夜間ゼミ風景】

飛騨農林■新規就農者　頭も体もフル回転（飛騨地域トマト研修所）

４月９日に開所したＪＡひだ「飛騨地域トマト研修所」では、研修生３名が平成 29 年産からの就農に向けて、日々、実習を中心とした研修に取り組んでいる。実習は、各研修生が１人につき約 12ａの栽培ハウスを担当し、責任を持って管理している。

これまで、4 月下旬にセル成型苗を育苗ポットへ仮植し、約 40 日間、育苗管理を行ってきた。併せて、施肥や畝立て等の本ぽの準備も進めており、6 月上旬に雨よけハウスに定植する予定である。

こうした中、4 月 22 日には、研修所を訪れた古田県知事との意見交換会が行われ、研修生は今後の抱負等を熱く語っていた。

農業普及課では、技術に精通した普及指導員を配置し、研修生に対するきめ細やかな指導・支援を行っている。

【トマト苗を観察する研修者】

【右：古田知事との意見交換会】

農業経営課■新任普及指導員　**新任普及指導員に対し現場実践研修を実施**

今年度新たに普及指導員となった職員４名が基礎技術を習得するため、50 日間にわたり県の試験研究機関において多様な品目の栽培管理実習を行っている。

また、併せて今年度より 10 日間ではあるが、先進農家における派遣研修を行い、農業者と作業を共にする中で、農業経営や農村生活に関する知識と農業者とのコミュニケーション手法等を学んでいる。

各人とも今後の普及指導活動の技術的ベースを形成するという目的とやる気を持って前向きに取り組んでおり、この研修が大いに役立つものと確信するとともに、少しでも早く一人前の普及指導員として自立し、地域に愛される人材になることを期待したい。

【先進的農業者ほ場での現場研修の様子】

県民みんなで育む農業・農村

下呂農林■食農教育　**地元高校生が定植作業を体験**

5 月 29 日、益田清風高校ビジネス会計科の生徒が下呂市スイートコーン研究会会員（萩原町）のほ場にてスイートコーンの定植作業を行った。

この取組は農業体験の一環として今年の４月から行っているものであり、今後は、収穫物をコーンポタージュやアイスクリームなどに加工する計画をしている。

農業普及課では、今後も栽培方法や加工について助言を行っていく予定である。

【定植作業】